

インタビュー

秩父産材を使い「クリーンエコシステム」利用の住宅を開発 次の百年に向けて、スローガンは「よい仕事をしよう」

伊田 登喜三郎 伊田テクノス株式会社代表取締役社長



いだ と き さ ぶ ろ う
伊田 登喜三郎 氏

- 1951年 埼玉県比企郡吉見町生まれ
- 74年 武蔵工業大学（現 東京都市大学）
土木工学科卒業
- 同年 フジタ工業(株)入社
- 78年 同社退社
- 同年 (株)伊田組入社
- 89年 同社代表取締役社長に就任
- 94年 伊田テクノス(株)に社名変更

1910年創業の同社は、百年の歴史を持つ土木、建築、地盤改良、不動産業を展開する県内屈指の老舗建設業者である。

1946年、土木の工事請負を目的として比企郡松山町（現在の東松山市）に株式会社伊田組を設立。その後、建設資材会社の東和産業株式会社を設立、砂利砕石工場の建設、生コン工場建設と時代に応じて建設工事に関わる事業を拡張、伊田テクノスを中心とする伊田グループを形成する。1989年の伊田社長就任後、戸建住宅の地盤改良事業にも進出し、自社でも戸建注文住宅建築を展開。2010年、国

産材を使用するハウスメーカーのHABITAブランドに友人と開発した自然エネルギーを利用する「クリーンエコシステム」を取り入れたモデルハウスをオープンする。

「経営理念の報徳思想は追い続けるもの。具体的なスローガンは『よい仕事をしよう』。単純だが、これが安定経営のスタートでありゴールであると思う」と、伊田社長は語る。

土木請負業で創業し、河川砂利採取業開始 伊田組で公共事業、建設資材会社設立で民へ進出

——創業百年を迎えられたそうですが、どんな経緯で土木請負業を始められたのですか。

創業者の祖父勘三郎は、吉見町出身です。吉見町は、荒川・市野川に挟まれた水害の多い地帯でした。15～16歳のころ、現在の土木事務所に見習いとして職を得て土木作業員をしていたところ、県の技術者から勧められ、1910年に土木請負業を始めました。家のすぐ前を流れる市野川の河川工事にあたり、地域の農家の人たちを集めるようなことからスタートしたのではないかと推測します。

明治時代に創業した県の土木事業者のほとんどが、利根川あるいは荒川沿いの市町村にある会社です。当時は水害に悩まされていて、それを防ぐのが国や県の大きな事業だったようです。

——法人になったのは、終戦の翌年1946年ですね。

その前の1921年に河川砂利採取業を始めています。地域には同業者もいたようですが、戦争で多くの会社が止めてしまいました。そ

んな中で戦争中も業を続けられたというのは当社の一つの誇りでもあります。

株式会社伊田組となり県が発注する土木工事を受注し、1960～80年には林道工事、土地改良工事、道路工事、河川工事などの公共事業を次々に受注し、県内の他社と同じように当社も成長期を迎え、地域社会のインフラ整備に力を注いできました。

道路の舗装工事が増えると、建設資材を扱う東和産業株式会社を1954年に設立しました。砂利採取業で工場運営のノウハウを持つ伊田組が砂利の砕石生産をして、それを東和産業に全量売って販売するという形で始めました。

時代が砂利からコンクリートへと移ると、今度は生コン工場を建設するというように、土木・建築工事、建設資材の生産販売、生コン工場開設など時代の流れに応じて少しずつ業種を拡大してきました。

**官では、技術力で総合評価入札制度に対応
民では、付加価値創造企業を目指す取り組み**

——社長就任後、社名を伊田テクノス株式会社に社名変更されましたが。



総合評価入札制度現場において独自の技術提案によって金額順位2番手以下から逆転受注した圏央道栢間沼第1高架橋下部工事

1989年に社長として事業を引き継ぐと、企業イメージ刷新を目的に社名を変更する企業が多く、当社も検討を進めた結果、テクノロジーとシステムをあわせて「伊田テクノス」と私が命名しました。多彩な建設技術をシステムで実現する技術集団を目指す姿勢を込めています。

——公共事業が電子入札になり、受注が難しくなっていると聞いていますが、どんな取り組みをしていますか。

総合評価入札制度が導入され、請け負った工事に点数がつき、そこで高得点を取れば点数が上がります。価格も持ち点の一つで価格が安いほど点数は高くなります。そのほかに会社の経営内容や社会貢献なども点数として加算され、評価点となります。

そのような中で我々ができることは限られていて、技術力を磨いて工事実績を上げる、技術者表彰を増やす。この2点に絞って勉強会を開くなどの取り組みをしています。

——民の仕事とはどんなものがありますか。

今後、公共事業は減る傾向にありますから、これからは民の仕事が社運を左右することになってくると思います。例えば、平成8年に蓮田市に基礎技術室を開設しましたが、これ



同社が建設した大里町（現熊谷市）生涯学習センターの直径40mの半円形の図書館部分は一本の柱もない大空間で、県産材の杉・桧がふんだんに使用されている

セミパイル工法

大切な住まいを不同沈下から守る



セミパイル工法は、独自開発の施工マシン・自動プラントなど技術とこだわりが集約されている湿式柱状改良工法、それがセミパイル工法です。当社2万件を超える施工実績を有し、安心をご提供し続けています。

セミパイル工法の特長

- 高品質・高強度を実現します。
- 支持地盤が浅い所はもちろん、深い所でも対応できます。
- 環境に配慮した材料を選定し使用しています。
- 狭い場所でも搬入・施工が可能です。
- 低振動・低騒音なので、ご近所迷惑になりません。

セミパイル施工方法

ロッドの先端に独自の形状を持つ攪拌翼を取り付け、現地地盤とセメントスラリーを混合・攪拌しながら改良していきます。予定深度まで改良し終えると引き続き混合・攪拌を繰り返しながら引き上げます。



施工状況・施工例



「セミパイル工法」は同社がこれまで蓄積した経験と最新のノウハウを駆使して住宅の軟弱地盤を改良する代表的工法

は地盤改良工事部門で、ほとんど民間向けです。主たるお客様はパワービルダーで、お客様の宅地造成に伴って地盤改良工事を請け負うために県内を出て、千葉や神奈川にも営業所を開設しました。

まず、地盤改良の調査を行い、どのような工法で地盤改良すべきか設計書をつくります。そして、その設計に基づいて地盤改良工事が行われるわけですが、数社の相見積になります。調査はしても工事は別会社になることもあるわけです。そこで、当社の付加価値として「10年保障」を付けています。安心安全の付加価値をつけて調査から工事までトータルでお客様に提案を行っています。民間の仕事ではいかに付加価値をつけるか、付加価値創造企業を目指す取り組みをしています。

戸建住宅事業においても、設計事務所が設計した住宅建設にもチャレンジしましたが、ダンプの時代でなかなか仕事を取ることができません。そこで、建築だけではなく土

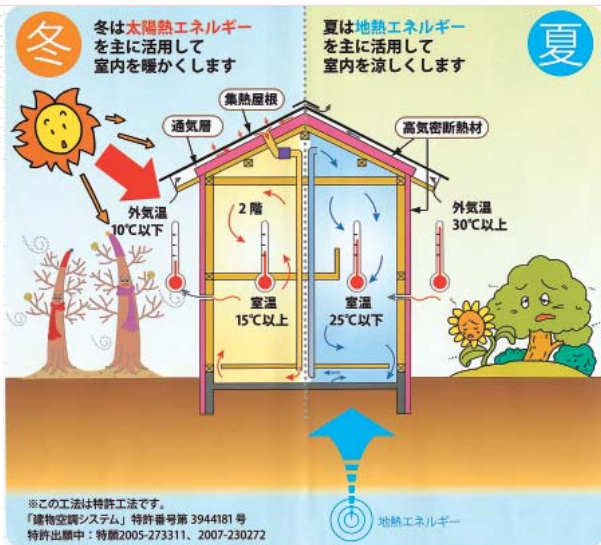
地活用から相談に応じるという付加価値を付けて行っています。

自然エネルギーを利用した空調システムを開発し、秩父産材を使ったモデルハウス完成

——2010年に完成したモデルハウスのパンフレットには、「クリーンエコシステム、(国産材100%) HABITA みんなの家」とありますが、こういった特長を持つ住宅ですか。

戸建住宅事業は、1980年に誕生した建築部で行っていましたが、住宅に関する政策が「量から質へ」方針転換される潮流を捉えて、2007年の「200年住宅ビジョン」の提言のもと、大手住宅メーカーと提携し、住宅事業にHABITA ブランドを加えました。

HABITA の家は、古民家に習った5寸角柱・尺高の梁などの大断面木構造体で国産材を使用、集成材・金物工法の採用など長寿命を実現する住まいづくりを特徴としています。



「クリーンエコシステム」は冬暖かく、夏涼しい「自然の力」を利用した究極の省エネルギーシステム

むき出しの梁で木の温もりが感じられるつくりは、デザイン的にもすぐれ2010年度グッドデザイン賞を受賞しています。

当社の HABITA のモデルハウスは、5 寸角柱だけは東北産、それ以外の床や天井などは地産地消の観点から秩父産の材木を使用し、国土交通省が推進する国産材モデル事業の補助金を受けて建設しました。そして、自然エネルギーを利用した夏涼しくて冬暖かいクリーンエコシステムで空調を行っています。

——「クリーンエコシステム」とはどんなものですか。

夏は地冷熱を使って冷房し、冬は太陽熱を使って暖房するシステムです。大学時代の同級生が開発した自然エネルギーを利用した空調システムです。特許を取得していて、使用权を当社が買い取り、私が「クリーンエコシステム」と名づけました。

夏の外気温が30℃を超えるときでも家の床下の陽が当たらない地表近くの地中温度は20℃ぐらい。その地冷熱で床下の空気を冷や



本社敷地内に完成した「クリーンエコシステム」を設置した、人間の五感を心地よく刺激する100%国産材を使用した200年住宅「HABITA」仕様のモデルハウス

してダクトで天井へもっていき、冷たい空気が下に行く性質を利用して室内を涼しくします。冬季は、ごく一般的な建材のガルバリウム鋼板の屋根で集熱し、熱くなった空気を冷気とは逆にダクトで下にもっていき、床下から放出して室内を暖めるという仕組みです。気密断熱と独自の空調・換気システムを組み合わせることで、わずかな電力と設備で空気を循環させ、冷暖房費が抑えられる省エネルギー住宅となります。坪単価も50万円〜と、リーズナブルです。猛暑でも35坪で12畳用のエアコン1台あれば27℃ぐらいまで冷えます。エアコンの空気の量より自然の空気の量が圧倒的に多いですから、非常にからっとして冷房病などとは無縁ですし、家中同じ温度に保たれるためヒートショックの心配がなく冬場でもお年寄りが安心して過ごせます。

現在、開発者の友人と「クリーンエコシステム」の売り込みを始め、現在全国で4社が使っています。それらの会社と勉強会を開き、情報を共有化してさらなる改良とノウハウの

蓄積に取り組んでいます。

経営理念は二宮尊徳の思想、報徳の教え 「よい仕事をしよう」がスローガン

——経営理念についてお聞かせください。

先代社長から報徳の教えを経営理念としています。二宮尊徳の思想ですが今に通じる非常に合理的なもので、「勤労、分度、推譲」の3つの言葉に集約されますが、それに父が「至誠」を入れて当社では4つの言葉としています。誠実・勤勉に働き、収入に応じて支出に限度を設け、余裕を生み出し、その蓄えた余裕を自分のためだけでなく、世のため人のためにも譲っていこうとする実践活動です。特に「分度」ですが、今の中小企業にピッタリだと思います。たとえ話で1,000万円を稼いでも1,001万円を使えば赤字です。しかし、100万円でも99万9,999円を使い1円残せば黒字です。そういうバランスを大事にしていかなければいけないということです。これはとても百数十年前に考えたこととは思えない今の経済学者が言っているようなことです。創業者の祖父が個人的に勉強していたの



同社は良き企業市民として「報徳」の精神の下彩の国ロードサポート団体活動にも参加

を父が経営理念としました。

先代社長は報徳思想の普及を行う団体から毎月先生をお呼びして幹部研修会を20年ぐらい続け、会社の中に報徳思想の定着をはかりました。今でも新入社員教育には入社前に報徳の本を配り、入社後は講師に講演をしていただいています。

グループ憲章、社是もその教えを根底につくられています。グループ憲章には「私達IDA GROUPは、快適な環境づくりを通じて、豊かな地域社会の発展に貢献し、グループの飛躍と社員の幸福を目指します」とあります。まず社会に貢献し、会社の発展と社員の幸福を車の両輪においています。

その中で、今後どのように進めていくかを一言で言えば「よい仕事をしよう」ということだと思います。その結果として数字がってくる、数字を目標にするけれども目的は「よい仕事」だと。この言葉を数年スローガンとして掲げ、社員に訴えています。お客様の興味は当社の利益ではなく、どんな仕事をしてくれるかです。経営の安定のためには繰り返し受注が必要で、そのためにもよい仕事をしなければなりません。そうしたことを考えていくと「よい仕事をしよう」がスタートでありゴールという感じがします。

——座右の銘や尊敬する人物はいらっしゃいますか。

座右の銘は、「至誠、勤労、分度、推譲」。この言葉が頭にこびりついていますから。

尊敬する人物は、先代社長です。戦争で肺をやられて体が弱かったにも関わらず、非常に事業欲が旺盛で1946年から1989年に亡くなるまで体力から見れば120%生きた人でした。人材の登用がうまく、父の時代を支えた人た

ちは、戦争ということがあるかもしれませんが特異な経歴を持った人たちが多く、その人たちが伊田グループをここまで伸ばしてくれました。また、若手に関しても人材を見抜く力はすばらしく、確かにその人たちは伸びて現在私の片腕として活躍してくれています。

埼玉では敵なしの強さを誇る剣道部 社長は剣道7段、道場「明德館」の館長

——剣道部が実業団の大会で非常に優秀な成績をおさめているそうですね。

戦後、GHQが剣道禁止令を出したところ、剣道が大好きだった父が地域に剣道をやる場所がなくなってしまうと剣道場をつくり、比企郡の人たちに自由に使わせたのが道場の始まりです。「青少年研修剣道場明德館」には、50年の歴史があります。剣道をやっている大学生が採用してくれないかとやってきて、次第に剣道大会で優秀な成績を残すようになりました。現在の部員数は30人ぐらい、中には幼稚園から明德館に通い、大学卒業後に入社して剣道部で活躍している人もいます。

企業クラブですが宣伝のために部員を集めているのではなく、道場の提供や試合にバスを出すぐらいでお金をかけているわけではありません。趣味でチームをつくり一緒に練習しているだけですが、県内では向かうところ敵なしです。

——どんな成績を残されているのですか。

1995年の第37回関東実業団剣道大会で初の3位入賞、2年後の第39大会では念願の初優勝を飾り、同年その勢いで望んだ第40回全日本実業団剣道大会では準優勝という成績を残し、実業団剣道界で「伊田テクノス」の名前



2010年関東実業団剣道大会で3度目の優勝した剣道部へは、道場「明德館」と移動バスぐらいを提供。趣味で集まった部員たちは常日頃鍛錬に励んでいる。

は知れ渡りました。

そして、初優勝から10年目の2007年の関東実業団剣道大会で2度目の優勝、2010年も白熱した試合を制して優勝しました。

私も6歳から、実際に覚えているのは小学校2年生からですが、道場に通っていました。現在は7段で道場の館長をつとめています。

——創業百年の歴史と将来を見据えた経営戦略。秩父産材を使った木の温もりのある環境に優しいモデルハウスに、付加価値創造企業を目指す会社の姿勢を感じました。

本日は、ありがとうございました。

伊田テクノス株式会社概要

創 業	1910年
設 立	1946年
資 本 金	1億円
売 上 高	65億円 (2010年度)
従 業 員 数	150名
本 社	〒355-0014 東松山市松本町2-1-1
電 話	0493-22-1170
ホームページ	http://www.idatechnos.co.jp
取 引 店	東松山支店